

## 資料名：発掘調査報告書Ⅱ

◇資料の種類：図書

◇点数：467冊（新規154冊）（亀岡市92冊、京都府下375冊）

◇配架方法：亀岡市教育委員会発行の報告書のみ開架、他は閉架

◇資料解説

### 1. 亀岡市の遺跡について

平成14年発行の「第3版京都府遺跡地図」によれば、亀岡市の遺跡の数は258となっており、池尻古墳群のように包括されている個々の遺跡を1つと数えると、その数はなんと1097にも及びます。

この数値を遺跡の種類別に見ると、古墳は851（うち96%にあたる815が円墳）、窯跡が102、城館が75、集落が21、寺院が8、古墓が6、そのほかが34となっており、古墳の数がもっとも多くなっています。時代別に見ると、やはり古墳時代に関わる遺跡が869と最多ですが、次に中世に関わる遺跡が292と続きます。もちろん、これは遺跡として認知されている数値というだけであって、この数値をそのまま地域の歴史や特性を語ることに用いることはできませんが、古墳や窯跡、城館の多さは亀岡市の特徴と言えるかもしれません。

### 2. 発掘調査について

発掘調査には大きく分けて大学等研究機関が行う学術調査と、行政が主体となって行う事前調査とがありますが、後者のほうが圧倒的多数を占めているのが現状です。事前調査のきっかけは、多くが開発行為であり、亀岡市内では京都縦貫道の建設や工業団地等の造成工事、または農地の圃場整備が挙げられます。

開発行為に伴う発掘調査では、多くの場合遺跡の破壊が前提となっています（もちろん遺跡の重要性によって、開発事業者と協議のうえ保存する場合もあります）。そのため、調査担当者は、どこに、どのような遺跡が存在していたかを正確に記録し、後世に残していく必要があります。その記録をまとめたものが発掘調査報告書です。

発掘調査報告書をみると、発行主体がどこであっても、はじめに誰が、どのような経緯で発掘調査を行うことになったかが必ず示されています。考古学の原則は現状保存であり、存在がわかったら発掘せずにそのまま保存していくのが基本です。発掘調査を行うということは、その原則に反することですから、なぜわざわざ発掘調査を行わなければならなかったのかをはじめにきちんと説明しておく必要があるのです。

### 3. 報告書について

そして次に調査結果の報告、つまり「どこに、どのような遺跡が、どのような状態で存在していたか」が示されます。これは発行主体や遺跡の性格とも関わるため一概にはいえませんが、基本的には、遺跡の地理的・歴史的環境、位置図、遺構の実測図（平面図や断面図等）、出土した遺物の実測図といった発掘成果の基本情報が示され、最後に調査担当者による分析が論じられるという構成をとっています。同様の遺跡であっても、担当者の着眼点の違いによって、掲載する実測図や成果の分析内容に多少の違いが生じるので、その違いをみていっても楽しいかもしれません。

（社会教育課文化財係 飛鳥井拓主事）

#### 4. 内容と利用方法

今回整理した報告書は、平成18年（2006）7月22日に行われた第4回資料公開「発掘調査報告書」を更新したものです。報告書には、亀岡市教育委員会が発行している報告書の他に、京都府教育委員会や京都府埋蔵文化財調査研究センターが発行しているものがあります。

①亀岡市文化財調査報告書・・・亀岡市教育委員会発行

発掘調査の報告だけでなく、景観や無形文化財などの調査報告も含まれています。

②埋蔵文化財発掘調査概報（京都府埋蔵文化財調査報告書）・・・京都府教育委員会発行

京都府全体が範囲なので、埋文センターと報告内容と重複している部分があります。

③京都府遺跡調査報告書・・・京都府埋蔵文化財調査研究センター発行（通称：埋文センター）

平成16年（2004）以降は、④京都府遺跡調査概報（京都府遺跡調査報告集）へ合併しました。

④京都府遺跡調査概報→京都府遺跡調査報告集・・・京都府埋蔵文化財調査研究センター発行

埋文センターが担当する発掘現場の情報をまとめた「報告集」です。「報告集」は遺跡単位でまとめられているので、概要を掴むのに最適です。

⑤京都府埋蔵文化財情報・・・京都府埋蔵文化財調査研究センター発行

埋文センターが担当する発掘現場の最新情報を掲載しています。

各報告書一覧表に合わせて、遺跡別報告書一覧と、五十音順遺跡別報告書一覧を更新しました。

#### ◇使用上の注意事項

・貸し出しはしていません。複写される方は「文献複写申込書」に記入の上、受付へお持ち下さい。（白黒1枚10円、カラー1枚50円）

### 公開うらばなし

蓄積されてきた報告書を整理してみると、「出雲遺跡第15次発掘調査報告」など、発掘調査が継続して行われているものもある一方で、道路工事や圃場整備の関係で、新たに発掘調査を行った遺跡もあり、10年前には一覧表になかった遺跡名も出てきました。発掘調査は「第〇次」と連続して行われるものと、そうではない単発的なものがあります。これから先も継続して報告書一覧表の更新につとめていく必要があると感じました。

### 公開の窓辺で...

資料公開を行うにあたり、私自身が考古学専門でなかったため、この遺跡はどこにあるのか、「第〇次」とはどういう意味なのか...など素朴な疑問がたくさん出ました。報告書を利用する人たちが、どうあれば便利だと思ってもらえるか、ということを考えながらリストの更新につとめました。（長谷屋慎）

### 事務連絡

前回平成28年3月19日（土）の第33回資料公開「口丹波史料（史料集）」の説明会参加者は4名でした。次回の資料公開は平成29年2月4日（土）10時から、高等学校報告書の「久遠の知」「大堰の流れ」を公開します。